

第4回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「奈良のまちづくり」

日時 令和4年11月5日(土) 14時00分～16時00分

会場 宇陀市榛原総合センター

資料説明	荒井奈良県知事
	<p>奈良では、リニア中央新幹線、大規模広域防災拠点、関西国際空港接続線という大きなインフラの波が来ています。</p> <p>リニア中央新幹線では、国が来年から名古屋・大阪間の環境影響評価に着手する方針を出すとともに、岸田総理からは、駅とルートの確定に知事がリーダーシップを発揮していただければとのご要請を頂戴しました。</p> <p>また、大規模広域防災拠点では、谷部を埋める盛土材にリニア建設の発生土を活用し、鉄道による輸送を検討しています。</p> <p>さらに、関西国際空港接続線では、発生土運搬のために改良した路線も活用し、リニア「奈良市附近駅」と関西国際空港を結びます。</p> <p>これらをつなぐ地域道路として、アンカールートなどの南部・東部地域の道路整備も進んでいます。</p> <p>南部・東部地域のまちづくりでは、今年の3月に条例を制定し、拠点の形成や結節、人材育成を進めています。</p> <p>デジタル化も大事な柱です。地域の新しい雇用や若者の移住定住につながるテレワークのようなことがどんどん広がればと思っております。</p> <p>その他、観光振興、医療・福祉など様々な取組を進めております。田舎でも色々なことができますので、一緒に考えていただければ幸いです。</p>

資料説明	金剛宇陀市長
	<p>宇陀市を持続的に発展させるためには、「地元産業の活性化」「事業の誘致」「雇用の創出」が重要課題であり、これらを解決するキーワードとして公民連携を推進しています。</p> <p>現在、進めている企業連携としては、伊那佐地区における特定農業振興ゾーン設定や有機農業の一大拠点「オーガニックビレッジ」の創出、薬草を活かしたまちづくり、トヨタ自動車の協力による地域住民主体のドアツードアのかぎろひバスの運行などを行っています。</p> <p>更なる企業との連携強化のため、空き家や空き店舗を活用した起業支援や榛原駅前で経済活性化の新しい拠点の開設などを進めています。</p> <p>このように、企業連携を積極的に進めてきましたが、まだまだ宇陀市の可能性を活かせていないことから、もっと公民連携を加速させるため、市内外の企業や大学などと行政がつながるプラットフォームをつくり、市の課題についてコンソーシアムで事業展開したいと考えています。</p>

資料説明	野村山添村長
	<p>本村では、総合計画と総合戦略を一本化し、4つの基本目標の実現に向け取り組んでいるところですが、その具体的な取組をご紹介します。</p> <p>まず、地域の特性に合わせたまちづくりについてです。神野山で、昨年焼失したツツジ</p>

の再生やめえめえ牧場を中心とした地域活性化に取り組んでいます。

次に、令和5年度に特別養護老人ホーム「つつじの丘」が開所します。これを契機として、更なる福祉の充実や雇用の促進を目指していきます。

また、シニア世代が「自らの生活を豊かにするためにデジタル機器を使いこなす」プロジェクトやマイナンバーカード普及の推進など、デジタル社会形成の実現に注力していきます。

このような取組の他にも、名阪国道の有効活用など、まだまだ伸びしろのある村です。和合結束を合い言葉に、村民、議会、行政と力を合わせ頑張っていきます。

資料説明	芝田曾爾村長
<p>本日は、本村の3つの新しい取組についてご紹介させていただきます。</p> <p>まず初めに、シェアキッチン「そこのわの台所 katte」についてです。農産加工場を、カフェスペースやショップを備えた施設としてリノベーションし、食を通じて地域課題の解決に取り組んでいます。</p> <p>続いて、「SONI SUMMIT」についてです。移住定住支援のきめ細やかなサービスを提供できる組織として、移住セミナーの開催などに取り組んでいます。</p> <p>最後に、「そこのわ GLOCAL」についてです。本村と地域住民が協働で設立し、インバウンド・国内向けの独自のツアー・プログラムを提供しています。</p> <p>ご紹介した3つの取組は、まだまだ日も浅く、課題も多くありますが、コロナ後を見据え、試行錯誤しながら、村の特色を活かした持続可能な村づくりを村民一丸となって取り組んでいますので、なお一層のご支援・ご協力をお願いします。</p>	

資料説明	伊藤御杖村長
<p>本村では、「みつつの杖」でつくる縁結びのふるさとを将来像に掲げ、ふるさとづくりを進めています。</p> <p>まず、1つ目の杖は、創造の杖で“しごと”の縁を広げるです。地域おこし協力隊をはじめ、自然の中で活躍したいという若者に、仕事場として御杖村を選んでいただけるよう、地域資源を活かし、アピールしています。</p> <p>2つ目の杖は、育成の杖で“ひと”の縁を育むです。地域住民の協力を得ながら、地域ぐるみで次世代を担う子どもたちをたくましく、健やかに育てていきます。</p> <p>3つ目の杖は、環境の杖で“むら”の縁を深めるです。緑豊かな自然環境の保全を基本とし、村民が安全で快適な生活を享受できるよう、生活基盤の長寿命化や更新などを順次進めます。</p> <p>本日参加の市町村ともさらに連携し、県からもご支援・ご指導をいただきながら、地域全体の振興と発展につなげていきたいと思っております。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>東部地域の発展や振興は大きなテーマです。若者の人口流出を防止できれば、発展する要素が多いように思います。</p> <p>奈良はベッドタウンとして発展してきましたが、最近の調査では、県外就業率が低下し、昼夜間人口比率が良くなってきました。その背景には、就業地別有効求人倍率が高く、若者や女性が働く場所ができてきたことなどがあります。</p> <p>近所に働く場所があると、働きますよという人がたくさん出てきます。この地域なら、榛原で働く場所をつくれれば所得も増え、若者が起業する可能性もあります。</p> <p>また、外からの投資だけではなく、中でも働く場所をつくるなど、創業支援を行うことも大切です。県では、大和平野中央で「(仮称) 奈良県立工科大学とスタートアップヴィレッジ」をテーマとする取組を進めており、能力のある若者に奈良で創業してもらうことは、本日の話を聞いて夢ではないなと感じました。</p>	